

聴覚障害者の立場から震災を考えさせる～関東大震災での朝鮮人虐殺を例として～

神戸聴覚特別支援学校 谷 充弘

1. はじめに

着任して10年となるが、それまでは普通科の高等学校のみの勤務であり、神戸聾学校在障児学校初めての赴任である。着任時に「聴覚障害」とは何かを考える時、聴覚障害者の教員から『わが指のオーケストラ』（山本おさむ 1992年 秋田書店）を紹介され、ここからは多くのことを学ぶことができた。

衝撃的であったのが関東大震災時の朝鮮人虐殺に際して多くの聴覚障害者がともに殺害されていた事実であった。日本史は専門外ではあるが、歴史学を専攻しこれまで授業をしてきた者としてこの事実を初めて知ることとなり、これまでの教材研究不足を恥じた。併せてこの事実は、聾学校（聴覚特別支援学校）の生徒たちに知っておいてほしいことと考えてきた。

2. 昨年までの授業実践

私が高等部所属であることと、朝鮮人虐殺が教科書に登場するのが高等学校からが主にあることから高等部生を対象に授業をし、着任（2003年）から数年間は、生徒たちも阪神大震災の被災者であることが多く、震災時の経験と重ね合わせて進めてきた。その際に『わが指のオーケストラ』は紹介はしたが、教材として使用することはしなかった。

しかしながら、5年前よりは阪神大震災後に生まれてはいるものの、ほとんど記憶には無い生徒となり、今年度を最後に震災後に生まれた生徒だけとなる状況に至ったため、まずは阪神大震災からふれてから進め、さらに昨年度からは東日本大震災も併せて学習を進めた。それに併せて3年前（2011年）からは、『わが指のオーケストラ』の一部（51～78）をコピー配布して各自に読ませて感想を書かせてきた。

昨年度は、「日本史」の大正デモクラシー等と関連づけ1時間で進めたが、事実を伝える程度で止まってしまっているとの反省があった。今年度は本科生だけでなく専攻科生も担当しており、ともに「政治経済」の一環で、考えさせることに中心にして進めた。

3. 今年度の取り組み（3時間）

1時間目

先記したが、東日本大震災の映像を多く見ているものの、生徒には阪神大震災の記憶は無い。神戸の学校ということもあり、まずそこを知らせていこうと、YouTubeから当時の映像をまとめたもの（7分程度）を見せた。内容は、発生直後のNHK神戸放送局の映像、三ノ宮東門街付近の飲食店の看板の落下と建物倒壊跡、4階が押しつぶされた神戸市役所旧館、倒壊した阪急三ノ宮駅、地下の神戸高速大開駅の様子、倒壊した阪神高速3号神戸線、灘区の国道43号線、崩れている阪神・阪急・JR・新幹線の線路、新長田周辺の火災と火災跡、などである。19歳の専攻科生でも「初めて見た」とか多くの質問が出されたので、見せて良かったと思った。なお、専攻科生は3人（19歳・男性2人、24歳女性1人）である。

その次に、「阪神大震災」「東日本大震災」と「関東大震災」とを比較した表（表1）を板書しながらともに完成させた。板書順は、「阪神淡路大震災」「東日本大震災」の順

震災	関東大震災	阪神淡路大震災	東日本大震災
いつ	1923.9.1 11:58:32	1995.1.17 5:46:52	2011.3.11 14:46:18
震源	相模湾北西沖 80 ㌾	淡路島北部沖深さ 16 ㌾	牡鹿半島東南東沖 130 ㌾の海底
	マグニチュード 7.9	マグニチュード 7.3	マグニチュード 9.0
被害	死者 105000 人	死者 6434 人	15879 人
	倒壊と火災	80%が家屋の下敷き	津波による原因大
		9.9兆円	16~25兆円

表 1

で、それぞれ、「いつ?」「震源はどのあたり?」「被害状況は?」と質問しながら完成させた。回答に正確さを問う必要性は考えずに、進めた。

「阪神大震災」「東日本大震災」の部分を終えた後、「関東大震災」の表を完成させていき、最後のもう一度、それぞれの被害の原因は何が一番大きかったかを確認していった。

2 時間目

阪神大震災後、避難所生活では聴覚障害者への情報保障が十分でなく、また、自宅に留まれた人も地域住民との間で軋轢があった例を紹介した (*1)。東日本大震災後の避難所ではどうだったのか、検証できていないが、阪神大震災からも情報の大切さを生徒たちと話し合った。生徒たちは、職場実習等で、筆談等の経験を積んでおり、また携帯電話からの情報収集との意見も出された。

情報の大切さを学んだ上で、関東大震災直後の様子 (写真) と新聞 (新聞 1・2・3) を紹介した (*2)。



新聞 1

米國艦隊救援
横濱へ砲撃する
米艦隊は横濱に砲撃した。艦隊は安全に撤退した。

主義者と鮮人一味
上水道に毒を撒布
警戒の軍隊発見して発砲
川口附近一帯の道は毒で汚れて、一団上野として歩き出す。毒を撒布する。警察は軍隊を発見して発砲した。川口附近一帯の道は毒で汚れて、一団上野として歩き出す。

四人三百名脱獄
鮮人と共に大暴状
静岡監獄出動す
静岡監獄の囚人三百名は脱獄し、鮮人と共に大暴状を演じた。静岡監獄に警察が出動した。

死傷十五萬人
島川の被災者は出動
島川の被災者は出動した。島川の被災者は出動した。

大臣の命令
村松隊出動
一個中隊東京へ
村松隊は東京へ出動した。一個中隊東京へ出動した。

攝政宮殿下
更に御避難
東京 皇朝を建て
攝政宮殿下は更に御避難された。東京 皇朝を建てた。

急遽日光
秩父宮御歸京
秩父宮は日光へ御歸京された。秩父宮は日光へ御歸京された。

東京の問題は
「生」の解決
損害は約五十億
東京の問題は「生」の解決。損害は約五十億。東京の問題は「生」の解決。損害は約五十億。

四百名捕縛
不逞鮮人ども
四百名捕縛された。不逞鮮人どもは捕縛された。

東京 大家雨
大狼狽をばしむ
東京 大家雨。大狼狽をばしむ。東京 大家雨。大狼狽をばしむ。

徴發令
天に渦く
徴發令。天に渦く。徴發令。天に渦く。

船内混亂
食糧欠乏で
船内混亂。食糧欠乏で。船内混亂。食糧欠乏で。



旧漢字が多いため、まずは漢字の読みや意味を説明しながら、朝鮮人が行っている、とされる事件を紹介し、なぜ多くの朝鮮人が国内にいるのか等を説明した。その上で、事実なんだろうか、と投げかけてみた。植民地となっていた朝鮮人が日常から武器弾薬を用意して、当時世界最強の日本陸軍と抗戦して一個中隊を全滅にできるのだろうか、を想像させた上で、政府・軍・警察からのデマであったことを説明した。

震災の被害で苦しむ被災地各所の住民は、警察等からの情報（デマ）を信じ、「自警団」によって朝鮮人に暴行虐殺を加えていったことと朝鮮人と判別するために「50円50銭」の発音で判断したことを説明し板書した（表2、(*3)）。

被害	死者 105000人	死者 6434人	15879人	表 2
倒壊と火災	80%が家屋の下敷き	津波による原因大		
	9.9兆円	16~25兆円		
他に流言（デマ、うわさ）で問題発生				
「朝鮮人が暴動を起している」		日本の政府等からの		
水道に毒を入れる、殺人をしている、強盗をしている		まちがった情報		
軍隊・警察が戦っている！				
これを信じた避難民は「自警団」を組織して朝鮮人を取り締まる				
朝鮮人が殺害される				
「50円50銭」の発音で判断				

板書後、『わが指のオーケストラ』を生徒たちには配布して読ませ、感想を書かせた。感想を各人に発表させたものが以下である。

- A：なぜ「円・銭」とか発音の違いで日本人か朝鮮人が区別できることがわかったのがわからなかった。（自分は言うことが出来るので朝鮮人と思われぬ）
- B：朝鮮人と東京の聾啞者が殺されたことを初めて知った。罪も無いのに地獄だな。
- C：震災で政治的な活動がおこるなら、今回も起こるのかな。日本人も朝鮮人も政治的なことで殺されたとしたら、かわいそう。

3時間目

前時の感想を受けて、Aの「朝鮮人とは思われぬ」に関して、生徒を非難することの無いように、「日本人であればよかったのかな」と思うけど、と投げかけた。また、Cの

意見に関しては当時の日本の社会状況を簡単に振り返っておき（板書）、ともに『わが指のオーケストラ』を再読していった。

関東大震災前の日本の社会状況 ^④	板書
1918年 米騒動 日本国内で生活困窮者から暴動 富山から全国へ波及 ^④	
1919年 三・一独立運動 朝鮮半島全域での日本からの独立運動 ^④	
1923年 関東大震災	

少々強引であることは否めないが、『わが指のオーケストラ』のなかで高橋先生が「挑戦の人たちが暴動を起こしたというのは本当なのか!？」の言葉からも、震災後数日でも情報が錯綜していることを理解させるとともに、一作が無事に帰ってこられたのは学校が発行した身分証明書であったことに気づかせた。

4. 今後への課題

生徒たちは、同級生の意見も聞きながら、正確な情報を得ることが大切である旨の意見に至った。また、コミュニケーション手段の大切さを発言する生徒もいた。成果としては十分に得られたと確信している。

しかしながら、関東大震災当時の社会情勢など基礎的な知識については教師主導のみの状況で、生徒たちに主体的に調査させることなどが必要では無かったか、と反省している。その結果として、知識としての定着には疑問が残るなどの教授方法などに課題が大きいと感じている。また、関東大震災から90年となる今年であるが、このときに聴覚障害者の何人が虐殺されたのかなどの具体的な資料がどこにあるのか全く調査できていないなど、実証性に不十分さを感じている。(*4)

付け加えて『わが指のオーケストラ』は聴覚障害者とその教育に多くの示唆を与えてくれる一冊と思っている。まだまだ多くの課題的を投げかけてくれている書物としてさらなる活用の方法を検討したい。

*1 岩本重雄氏の体験より。岩本氏は、全国手話研修センター人材養成課課長、兵庫県聴覚障害者協会施設プロジェクトチーム委員で、阪神大震災時には、救援対策部阪神支部長として聴覚障害者の被災者支援に従事され、2000年3月に兵庫県「こうのとり賞」受賞

*2 写真：「京橋の第一相互ビルディング屋上より見た日本橋及神田方面」（1923年9月15日、大阪毎日新聞社）。新聞1「下越新報」（1923年9月3日発行）。新聞2「庄内新報」号外（1923年9月4日発行?）。新聞3「新愛知」号外（1923年9月3日発行）

*3 「朝鮮人が井戸に毒を・・・」等がデマを政府筋が意図的に作り民衆を扇動していった経緯と背景については、戦後歴史学の研究の成果として、田沼肇「米騒動・社会運動の発展」（『岩波講座日本歴史 19』 1963年）の学術論文や、山本おさむ氏が『わが指のオーケストラ』内でも参考文献として紹介している松岡洋『治安維持法と特高警察』（教育社 1979年）など多数ある。また近年では、関東大震災85周年シンポジウム実行委員会編『震災・戒厳令・虐殺』（三・一書房 2008年）、宮地忠彦『震災と治安維持法構想』（クレイン 2012年）等で、その実態が実証報告されている。

*4 専修大学の小菌崇明氏が、「関東大震災下に「誤殺」された「ろう者」について」（『関東大震災 90 周年第 3 回学習会』2013 年 3 月 23 日）において、1923 年 10 月 25 日『東京朝日新聞』、1924 年 4 月 20 日『法律新聞』、東京聾啞学校『行啓記念帖 大正六年十月十九日』（1917 年 12 月）の資料より詳細に検証されており、聴覚障害者の虐殺が一例はみられたことを検証されておられる。

「執行猶予なしの自警団殺人事件判決」

浅草新谷町一四土木請負業仏事龍石瀧馬（三三）同区千束町二四二土工吉岡八五七（四四）の両人は昨年九月二日午後九時頃新谷町一四第一飛行館に避難してゐた同町五清水音五郎方同店聾啞者家中義雄（二二）を言語の通じないため不逞鮮人と思ひ日本刀で惨殺した殺人被告事件は・・・略（1924 年 4 月 20 日『法律新聞』）